Luminous Body

- Luminous Body -
Valkyrie Profile2 -Silmeria- Book Product:08
Presented by Pizzu Star 2008.April

For Adult Only.

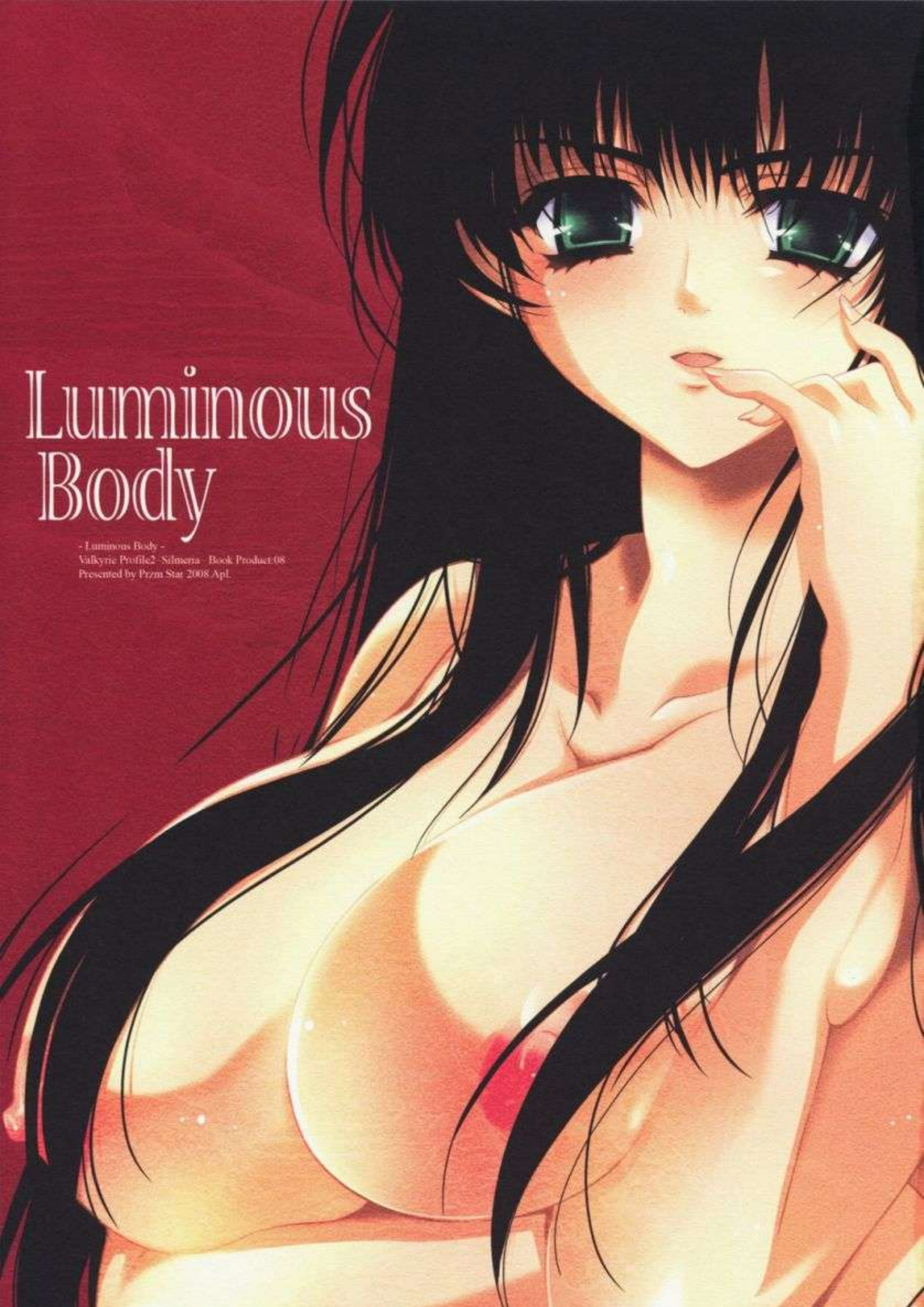
- North Kingdom Labyrinth tour - Sengoku BASARA Book Product:04 Presented by Pizzu Star 2008.Feb.

[For Men]

R-18

※男性向：18歳未満閲覧禁止

※表紙及び裏表紙とは
別の裏表紙もありません。


Luminous
Body
- Luminous Body -
Valkyrie Profile2 -Silmeria- Book Product:08
Presented by Przm Star 2008.Apl.

■恥めましてコンニチワ、もしくはいつもありがとうございます～
Przm Star（ぷりずむすたー）の光星（かんしん）です。

気がついてみれば半年以上ぶりのVP本ですよ！その間神羅やったり仕事やったり2週目やってみてたり光星としては同人離脱してたり（※イベント申込みをれまくったから）とか、まあ色々あった訳ですが・・・。世間様の流行から離れるにも程が。・・・まあ元々旬とかあんま関係ないゲームですけどね<・・>
つかなんか初夏頃には今更<！>設定資料集とかもでるらしいし？ようやくセレスさんとか解禁になりますね！！（いやーアレが自毛がどうかで手着けづらくて）　次回作も出るらしいし。主人公男らしいですが。

■そんなこんなで超久々のVP本ですが、調子こばってフルカラー漫画とかやってみたり色々やりたい放題やってますが、お付き合い戴ければ幸いでゴザイマス。

ではでは、本文で。　よろしく～ねっ<ゆー●ぴあ>

2008.Apl.　Przm Star　光星

自分からノコノコヴァルハラ宮殿まで乗り込んでくるとは良い度胸だ
シルメリアの居ない今お前は只の人間の女に過ぎないというのにな
なぜ神ともあろう者がこんな事を…!!
人を導き模範となる存在ではないのですか!?
そうやってまた神である我々に刃向かうのか!?
それが罪だと言うのだ!!!
あっ…!!!

身の程をわきまえろ、人の子風情が!!!
あマッ
や、辞めてください…っんな…!!!
あッ
ひあっっ!!!
神をも誑かす蛮婦めが…思い知るがいい
あ…ああああっっ!!!
ぷーぷぷ!!
あ、い、イっちゃ…ううううっ♡
あああ

EGOISTIC LIBIDO.

Przm Star 2008 Apl

なんだもう抵抗は終わりか
ようやく我々神の偉大さが判ってきたようだな
やっっ…両方同時なんて…無理ですうっっ
ひあああっっ♡

勘違いするなよ…これは天罰だ
いや…こんな事…されて…
恥ずかしい…筈なのに…!!!
気持ちよくしてやろうって訳じゃない
まあ、それでも感じるのは勝手だがな
やっっ…あ、はあああっっ♡

しっかり飲み込めよ

万が一にも我々神族の子を孕むような事があれば

神の母として命だけは助けて貰えるかもしれんぞ

あ…ま、また

おなかの中…に…♡

あ…

熱くて、媚薬みたい…♡

神族の精液…だから…？

猥らな顔をさらしおってそんなにコレがほしいか

はむ…うう…ん♡

こん…な…
きもちいいの
…はじめて…

神様ってやっぱり…
私たち人間には及びもつかない存在だったのね…

またイったか
ようやく神族の偉大さが身に染みたようだな

は、はい…もう…
悔い改めます…から…

はぁ
淫らな咎人のいやらしいお●こに…
もっと…もっと天罰を…下して下さいませ…♡
悔い改めようもない賤しい人間だ
そんなに欲しいか!!!
あっっ♡
ひあああっっ唐い…のぉ…っ♡
あ、ああっっ…だめ、またっっ
神様の…お●ん●んでイっちゃう…!!!

ふあ…っ♡
ああああっ
思い知ったか神の力!!!
神ばんざーい!!!
だば
だば
神族サイコー!!!
あの～…

どうしてこんなに楽しそうに倒れてらっしゃるんでしょう…

神族って変わってるんですね…

ほっとけ

ほっとけ

只のバカだ

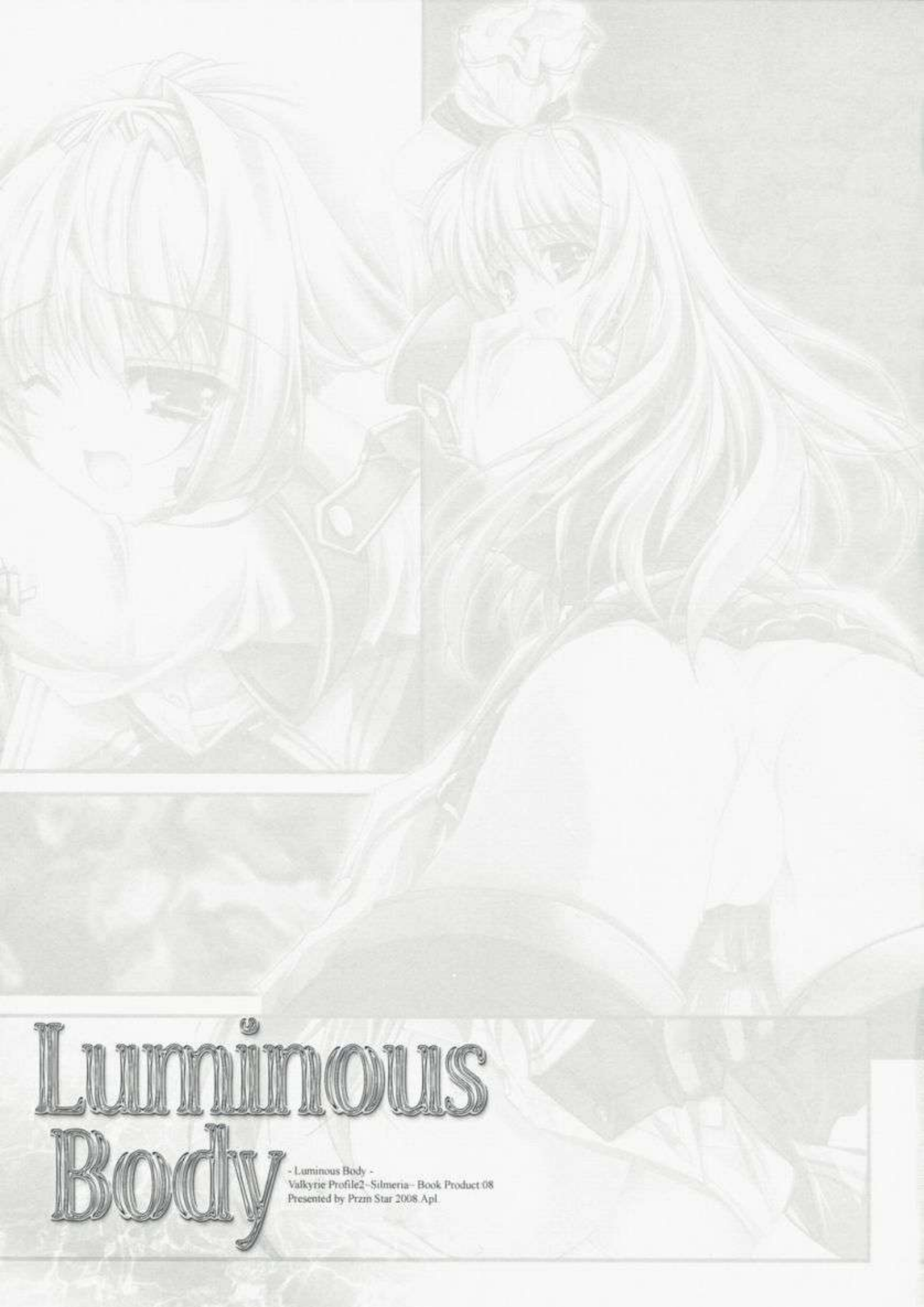
死。

さーて、あとはあのフレイとかいう姉さんだな

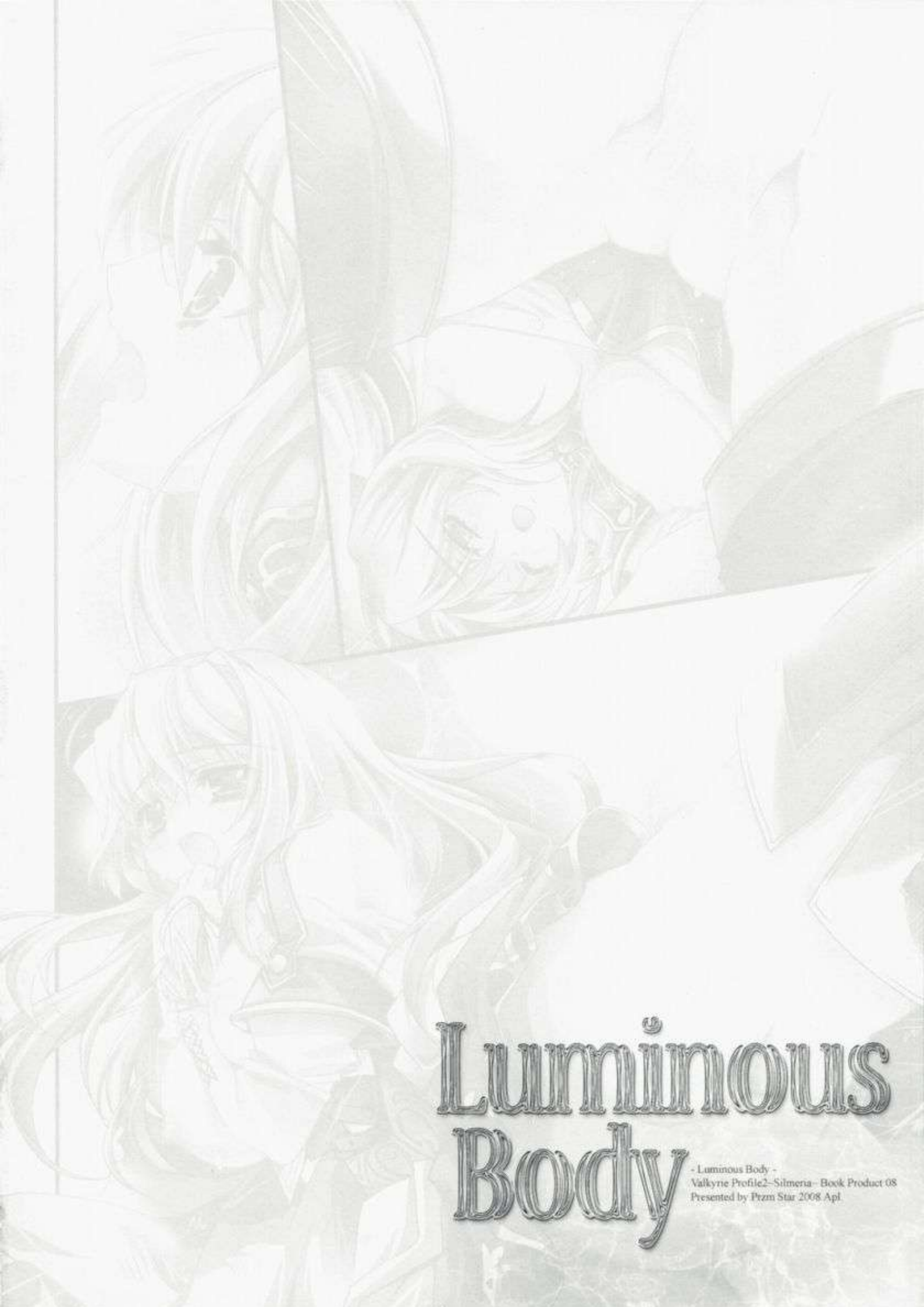
オーディンより強いからキアイ入れてけよ～

はい♡

シルメリアが居なくても能力だけは残ってるってずいぶんご都合主義だなあとかそういう話。



- Luminous Body -
Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book Product 08
Presented by Przm Star 2008.Apl.



- Luminous Body -
Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book Product 08
Presented by Prism Star 2008 Apl.

Ubiracone

ある日の宿屋でその食堂。
そのある一卓は周りの目を引く、大男と、細身の青年、それに触れたら壊れそうな美少女という面子だったからである。
この面子、先程から少し揉めていた。

事のはじまりは宿屋で出された料理だった。
「うわぁ・・・美味しそうですね」
アリーシャは出された料理を珍しそうに眺めていた。
市井の人間から見ればごく普通の家庭料理なのだが、王女のアリーシャには珍しいものばかりである。
「これはなんていう料理なのですかルーファス」
「ん？あーそれは鶏肉と茸を香辛料で煮込んだヤツだ」
「この地方の代表的な家庭料理です」
という事で宿屋で出される料理をまずアリーシャが二人に尋ねるというのがささやかな恒例となっていた。
「ではいただきます」
アリーシャはスプーンを手に取り、ひとすくいを口に運んだ。
そしてゆっくりと味わっていたが舌を刺す刺激に思わず咳き込んだ。
「なっどうしたアリーシャ」
「王女？」
「けほっ・・・これ・・舌がひりひりします・・・」
けほけほと咳き込みながら涙目でアリーシャが応えると二人は顔を見合す。

確かにこの料理は香辛料を使っているがそんなに辛味はないはずだった。
二人も味見をしてみたが辛いというほどではない。
アリーシャが辛味に弱いだけなのだろう。
「とりあえずこれ呑んどけよ」
ルーファスは水の入ったカップを差し出すとアリーシャは一気にそれを飲み干した。
「ふう・・・」
それでアリーシャも落ち着いたようだった。
「治まったか？」
「はい。あの、これなんていう飲み物ですか？とても甘くて美味しかったですけど」
「は？ただの水・・・あーっ」
テーブルに置かれたコップを見てルーファスが食堂中に聞こえるような奇声を上げる。
「どうした」
「酒のコップと水のコップ間違って渡しちまった・・・」
「ルーファス・・・」
静かにディランが怒っているのが殺気でわかる。
「ま、待てわざとじゃないっ」
一方のアリーシャはきょとんとしている。
「今の・・・お酒だったのですか？」
「そうです。王女、目が回るとかおかしい所はありませんか？」
ディランが心配して聞くがアリーシャは顔色もいつもと変わらずけろっとしていた。
「いいえ、私初めてお酒を飲んだんですけどとても美味しい物なのですね」

と、笑顔で答えるアリーシャにルーファスとディランはもしや『ザル』かもしれないのでこれからは気をつけようと思ったのだった。

アリーシャは食堂でルーファス達と別れて、部屋へと戻るとそのままでベッドに寝転んだ。
「ふう・・・」
さっきは大丈夫だと言ったが、本当は身体が熱っぽかった。
意識も何かに包まれた様な感じではっきりとしない。
「なんかふわふわーとしますね・・・」
高い体温と鈍い感覚が体がふわふわと浮き上がった様な気分にさせて段々と眠気が襲って来る。
これが「お酒に酔う」ということなのかな、と思いながら心地良さに負けてアリーシャは瞼を閉じた。

「ん・・・」
誰かが足を触っている様な気がしてアリーシャは目が覚めた。
けれどもまだ意識がはっきりせずにまどろみの中で薄目を開ける。撫でている人物は自分の足元にいるようで姿が視界に入らない。部屋に戻ってきたルーファスが触っているのだろうと思いアリーシャはそのまま動かずにいた。
手は足首からさする様に上がって行き、膝を撫で太股まで来た。
もう少し上に行けばスカートの中に手が入る。
「あ・・・待ってルーファス」
この頃にはさすがに意識がはっきりし、アリーシャは起き上がって自分の足元を見た。
が、そこにはルーファスはおらずエインフェリアの紗紺が自分の足に手を這わしていたのだった。
「さっ紗紺さんっ？」
「はぁい王女～」
驚くアリーシャをよそに紗紺は陽気に手を振ってアリーシャに挨拶を返す。その顔は火照ったように赤く、目つきもいつもの紗紺とは違うような気がする。
とりあえず紗紺から一度逃げようとアリーシャはベッドにぺたりと座った。
「私・・呼んでないです・・よね？」
お酒を呑んで寝てしまっている時に実体化させてしまったのだろうかと不安になる。急いで胸に手を当て意識を内に集中させると他のエインフェリア達の気配は内に感じられたので一安心だった。
「ううん、自分で勝手に出てきちゃったのよう。なんか久しぶりにお酒飲んだら酔っ払っちゃってね～」
「え・・・？」
アリーシャは目を丸くする。
「お酒飲んだのは私なのですけど・・・」
「あらぁん王女、私たち一心同体でしょ」
「確かにそうですけど・・・」
自分の体調がエインフェリアに影響するとはシルメリアに教わっていたが、自分がお酒に酔うとエインフェリアまで酔うとは知らなかった。それに自分はもう酔ってはいないみたいだが目の前にいる紗紺は今酔っ払っているし、先程の自分の酔い方とも違うみたいだった。
「どうしましょうか・・・」
少し寝たら自分は酔いが覚めたようだがエインフェリアの紗紺

にそれが有効なのだろうかと考える。
「あ～大丈夫、大丈夫。病気じゃないんだしぃ～王女は心配性ねぇ」
紗紺は全く気にしてない様で上機嫌に笑う。
「大丈夫ならいいのですけれど・・・」
「それよりも王女～」
紗紺は四つん這いになってアリーシャに近づく。
「な、なんですか」
悪戯を思い付いた様にニヤリと笑った紗紺の表情にアリーシャはいやな予感がして少し後ろに体を動かす。
「あのハーフエルフとはどうなの～？」
「え・・・どうって・・・？」
ルーファスとの何がどうなのかすぐに解らずきょとんとした顔をする。
「もう惚けちゃってぇ～セックスしてるんでしょ？」
「えええええっなっ何を紗紺さんっ」
アリーシャ顔が一瞬で朱に染まった。
「お姉さんは何でも知ってるわよーねぇルーファスってどう？」
ニヤニヤと笑いながら紗紺は質問を続ける。
「ど、どうって・・・あの・・・」
「セックス上手い？下手？」
「ええええっそ、そんな解りません私っ」
アリーシャはこれ以上ないほど顔を真っ赤にしながら首を横に振る。
「またまたぁ、まだ一回しかしてないから判らないとは言わせないわよぉ～」
「そ、そうじゃなくて・・・」
アリーシャはまた首をぶんぶんと横に振る。
「それは何回もルーファスとしてますけど・・・私ルーファスとしかした事ないから・・・その・・・上手いとかわからなくて・・・」
「あ、そうよねぇルーファスが初めてだものねぇ」
「そうですだから・・・」
紗紺が納得した表情をしたのでこれでこの話は終わりかとアリーシャは安心したが甘かった。
「じゃあどういうセックスしてるの？」
「ええええっ」
紗紺は更に突っ込んだんだ質問をしてきたのだ。
「え？でもそれは内から見て知ってるんじゃ・・・」
普段はアリーシャの中にいるエインフェリアなら二人の艶事が見えるのではないかと思っていた。
「んー、それが二人のお楽しみ中は王女とのリンクを切られちゃってるみたいで何にも解らないのよね～残念」
「あ、そうなんですか・・・」
アリーシャはほっとすると共に恐らくそうしてくれているシルメリアに感謝する。
「なのよ～。ね、だからお姉さんにお・し・え・て」
気の抜けたアリーシャを紗紺は見逃さずそのままベットに押し倒した。
「きゃああっんっ」
「ふふふ捕まえたぁ～逃がさないわよぉ」
紗紺はアリーシャの上に跨る。
「さ、紗紺さんっやめて下さいっ」
アリーシャは逃げようともがくが紗紺に押さえ込まれる。
「だめよぉ～もう王女は私のモノなんだからぁ」

「そ、そんな・・・」
「大丈夫。優しくしてあげるから～」
にっこりと満面の笑みで紗紺は笑いかける。
何を優しくするのか解らないが、逃げられそうもなく、女同士なので何もされないから大丈夫だと思いアリーシャは諦めた。
それに他の人がどういう風に営んでいるのか知りたいという気持ちもする。
「さ、じゃいくわよー最初やっぱりキスから？」
「あ・・・はい・・」
アリーシャが素直に頷くと、紗紺は顔を近づけアリーシャの唇を奪った。
「っ・・・」
突然の事でアリーシャは驚くが軽く触れただけですぐに紗紺は唇を離す。
「こんな感じ？」
「はい・・・でもあの女の人同士でこんな・・・」
「平気よ～それに王女だってその方が思い出しやすいでしょ？」
「それは・・・そうですけど・・・」
「よし、じゃあ続きから、舌入れる？」
「は、はい」
アリーシャがおずおずと頷くとまた紗紺はアリーシャと唇を重ねる。今度は唇を合わすだけでなく唇を開き、アリーシャの柔らかい唇を舌先でなぞる。
「んっ・・・ふぅ」
それが合図のようにアリーシャも唇を開いて紗紺の舌を中へ受け入れた。
「うぅん・・む」
紗紺の舌はアリーシャの舌を捕らえ、アリーシャもそれに応えて絡めあう。
「ふっ・・・うん」
唇をずらし角度を変えながら舌を交し合う。
ルーファス以外でしかも相手は同姓ということでためらっていたアリーシャだが段々と甘い高揚感が体に沸いて来る。
「はぁ・・・」
どちらからともなく唇を離すとお互いの物が混ざり合った唾液がつうと、糸を引く。
「ふう・・・」
紗紺はひとつ息を吐き、指で唾液に濡れたアリーシャの桜色の唇を拭った。
「王女、どうだった？」
「はい、よかったです・・・」
キスに感じていた自分が少し恥ずかしく俯いて答える。
「次はどうしてるの？」
恥らうその姿が可愛くて、わざと紗紺はアリーシャの耳元で囁き、耳たぶにふうっと息を吹きかけた。
「っ・・・」
紗紺の息が耳と首筋に掛かりさっと肌が粟立つ。
「あ・・・耳を・・・」
「こう？」
ほのかに染まった耳たぶを軽く咥える。
「あっ・・・ん」
「それともこうかな？」
舌を出して耳の外側をゆっくりとなぞる。
「あんっ・・・はぅんっ・・・」
ぞくぞくとした快感に耐え切れずアリーシャは声を上げる。

「耳弱いのね王女」
「あ・・・はい・・・」
紗紺は耳を弄びながらアリーシャの首筋を撫でる。
「耳だけ弄ってるんじゃないわよね。」
唇はゆっくりと耳から首筋へと移って行く。柔らかい唇の感触が心地よくアリーシャを刺激した。
「ん・・・胸を触ってくれます・・・」
アリーシャは自分から服の前を開こうとしたが、紗紺がクス、と笑いその手を止める。
「ダメよ王女。いつもは脱がされてるんでしょ?」
「すみません・・・」
その手を軽く握って動かすと紗紺はアリーシャの服を開いた。
白い柔肌と豊かな二つの乳房があらわになる。
その頂にある薄桃色の乳首も浮き出し始めていた。
初めて間近に見るアリーシャの乳房を紗紺はまじまじと見つめる。
「着やせするのね王女」
「あ・・・」
紗紺の視線に気づいてアリーシャは手で胸を隠そうとしたがまた紗紺に阻まれてしまう。
「隠しちゃだめよ、もっと見せて」
「恥ずかしいです・・・」
「そんなことないわよ肌も綺麗だし」
紗紺はアリーシャの乳房に手を伸ばし乳房をやんわりと掴んだ。
それだけでも乳房に指が沈む。
「っ・・・」
びくりとアリーシャが反応する。
「すごく柔らかいのね・・・触ってても気持ちいい」
乳房の柔らかさを楽しむようにゆっくりと揉む。
「あん・・・は・・・ぁんっ・・」
アリーシャの口から甘い声が漏れる。
白い首筋を愛撫しながら紗紺は揉む力に強弱を付けていくと乳首がその存在を主張し始める。それを紗紺は指先で軽く撫でた。
「あぁんっ」
不意打ちにアリーシャの体が大きく波打つ。
紗紺は続けて乳首を軽く摘まんだ。
「ひあっあんっダメ・・・紗紺さんっ」
「あら乳首触られるのはキライ?」
そう言いながらも人差し指で乳首をくにくにと弄ぶ。
「やぁあんっ!ちがっ・・・そんないじっちゃ・・あぁんっ」
乳首を弄ぶ指の動きに合わせアリーシャは乱れる。
「じゃあこれも弱いかしら?」
片方の乳首を紗紺は舐め上げた。
「ああんっそれ・・・それもダメですっ」
空いたもう片方の乳首も同時に指で刺激する。
「ふぁっそんな両方なんて・・・はぁっん」
乳首を口に含み強く吸われると背中を快感が走り抜けた。下腹部が熱く既に濡れているのが自分でも解る。熱い塊がどくどくと脈打ち始め、その快感に耐え切れずに太股を擦り合わせているとその脚の動きに紗紺が気が付いた。
「あらん?」
乳首と乳房への愛撫をやめて起き上がり、アリーシャの太股をつうっと撫でる。
「ふっう・・・」
敏感になっているアリーシャはそれだけでも声が漏れた。

「そろそろこっちも触る頃かしら？」
「は・・・い・・」
アリーシャが自分から足を開くとその間に紗紺は体を置いた。
スカートをめくり上げ、白い下着を見ると太股の付け根のその中心は湿っていた。
「もう濡れてたのね」
その部分に紗紺は触れると布地を通してぬめる感触が伝わって来た。
「ふあっ・・・ん」
アリーシャの太股がさっと粟立つ。
指ははそのまま割れ目を下にをなぞっていくと蜜壷の上にたどり着いた。
「ここからいっぱい出てるのね。まだ触ってないのにやらしいわね王女」
「っそんな・・・ああんっ」
蜜壷の入り口をくるっと撫でるとアリーシャは体を震わせる。
「直接触って欲しい？」
「はい・・・」
潤んだ瞳でアリーシャが頷くと紗紺は下着の紐を解き、薄布を取り去った。
恥丘の柔らかい和毛やその下の割れ目が大気に晒された。
その割れ目にまずは中指を沈ませた。
「あっ・・・」
ひやりとした指の感触にアリーシャは声を上げる。
「冷たいです・・・」
「そう？王女のココが熱いからじゃない？」
指に愛液を絡ませ、割れ目の中を上下に動かす。
「あんっ・・うううんっ・・」
「スゴイ濡れてる。胸触られるのそんなに良かった？」
「はい・・・いつもと全然違ってて・・・されてることは同じなんですけど・・・」
「ぷっ・・・」
アリーシャの言葉に紗紺は思わず吹き出す。
「それじゃルーファスが下手って事に聞こえるわよ王女」
「え、いえ、そうじゃなくて、やっぱり男の人と手が違うから・・・」
「あ、そういうことね、じゃあこんなのも違うのかな？」
そういうと紗紺はアリーシャの割れ目を指で開いた。
愛液に濡れ、充血した秘部があらわになり、さらに紗紺はクリトリスを露にしてそのピンク色の肉芽に触れた。
「ああんっ・・・っ」
敏感な突起にじかに触れられ、アリーシャは悶える。
紗紺はクリトリスを指の間で挟むようにすると小刻みに震わした。
「ひああっあっ・・ああああんっ」
身体中を快感が走り抜けていき熱い塊は激しくどくどくと脈打っていく。
そこに追い討ちをかけて紗紺は割れ目に顔を寄せ、クリトリスを舐め上げた。
「はああぁんっ」
意識が飛びそうになるほどの快感が突き抜けて行く。
「ダメっ舐めちゃだめですぅっ・・・」
アリーシャは身体を起こして紗紺の愛撫をとめようとしたがまたクリトリスを舐められ、力が入らない。
「はぁ・・・お願い・・ですこれ以上されたら私・・・」
「そう？王女のココは喜んでるわよ」

紗紺は中指と薬指を愛液でたっぷりと濡らし、受け入れるものを求めてひくついている蜜壷に挿入した。
「ひあああああんっ」
「すごい中も熱いわよ王女」
その指をゆっくりと抽送し始めるとアリーシャは仰け反り嬌声を上げる。
「あ、はぁっあああんっあっ」
微妙に曲げられた紗紺の指は膣壁の敏感な箇所を擦り、それに応えるように膣壁は紗紺の指へと絡みつく。
「こんなに締め付けて王女気持ちいい？」
「ふぁっあああんっあ・・・はい・・」
「そう、じゃあこっちもしてあげる」
挿入した指はそのままに身体をずらし紗紺はアリーシャの乳首を強く吸った。
「ひあああんっ」
きゅうっと膣が紗紺の指を締め付ける。
そしてまた指の抽送を始める。
「やあっだめですっ一緒になんて・・・ああああんっ」
がくがくと身体が震えていままでどくどくと脈打っていた熱い塊がはちきれそうになる。絶頂が近かった。
「だめっだめっですっもう私・・・っ」
「いきそう？」
紗紺は指の抽送を激しくし、中をかき回すように円く動かした。
「ああっ来ちゃ・・だめぇっ来るっああっあああああんっ」
突き抜けて弾けた感覚に頭が真っ白になりアリーシャは身体を仰け反らせて絶頂を迎えそのまま気を失った。
それでも膣は別の生き物のように痙攣し紗紺の指をきつく締め上げる。
「ふう・・・」
紗紺はアリーシャの中から指を引き抜くとそれを口に含んだ。
「ごちそうさま、王女」
満足そうに紗紺は笑うとまたアリーシャの中にと戻っていった。

―次の日。
「っ・・・！」
アリーシャは目を覚ますと一瞬で昨晩の事を思い出し、飛び起きた。そして自分の身なりを確認したが、昨晩のままではなくとちゃんと夜着をまとっていて服は枕元にきちんと畳まれて置かれていた。
「夢・・・だったのでしょうか・・・・？」
ひとりそう呟いたがそれはそれですごい事と考えて赤面し、とりあえず着替えようとベッドから降りたとき、ひらりとアリーシャと一緒に床に落ちたものがあった。
「なんでしょうか・・・？」
アリーシャはそれを拾う。
それは昨日自分が身につけていた下着だった。昨日の行為の残滓が乾くことなく付いている。アリーシャはまた赤面してそのままベッドに突っ伏してしまった。

終

GUEST COMMENT

お招きいただきありがとうございました。

光星さんには本当にいつもお世話になりっぱなしの
百地ながとでございます。
ここの所光星さんのご好意に甘えて
好き放題書いていたので、
いっちょ久しぶりにアリーシャをと・・・！
女の子同士ですが。

なんか近頃食べ物が出てくる話
ばっかり書いてるような気が・・・。
それよりももっとえろ描写を増やせ
との天の声が聞こえるような（汗）
今回はお酒を飲んでもけろけろ
しているアリーシャですが、
本当は口つけたらそのまま
バタンキューだと思います。
屋内純粋培養だもの
お酒には弱いはず（願望）
いい感じに酔っ払ったアリーシャに
あんなことやそんなことを
してみたい気も
目が覚めたらすっかり忘れてるというお約束で。

そしてアリーシャが紐パンなのは仕様です（笑）
というか光星さんの描かれるアリーシャが紐パンなので
すっかりスリコミされています～。
紐パンはエロくていいなあ・・・（煩悩）

- LUMINOUS BODY -
VALKYRIE PROFILE2~SILMERIA~ BOOK
PRODUCT:08 PRESENTED BY PRZM STAR 2008.APL.

■スイマセン本当はもう1本漫画描いてたんですが、入稿直前で1P消えたり<いや自分が悪いんですけど・・・ね・・・・今回に限って下書きからオールPCでやってみてたり：：>色々トラブルあって、今回はお休みにするはずだったトラッシュコーナーを臨時追加させて頂きました・・・

しかも急の追加なんでレイアウトもグダグダですいません・・・アリーシャばっかだし。

内容薄い本でごめんなさい：：この借は必ず返す！<シュ●イダーくん>

次回VP本は6月のサンクリか夏コミ<当たれば>だじょ～。

おわびといってはなんですがスペシャルページを用意しましたんでどうじょ。
http://przm.matrix.jp/LB4237

携帯も共通アドです。QRコードOKな人は右下のをご利用下さい。
PCとか携帯の壁紙なんかをDLできるようになります～予定。（2009/01月まで）

■そんな訳でトラッシュコーナーです〜
いやもうホント時間ギリギリなんで・・・
コメントとかもアバウトでスイマセン：：

■しつこく前半が好きを主張。

■尻のラインがでてますよ〜〜〜
敢えて消しませんでしたが問題
ありました？

■つーか本文漫画もでしたが
見事な尻フェチっぷりで
すいませんえん。
最近乳フェチの気もでて
きたんですが・・・
いーんですよギャル描ければ
それで<アバウト>
■ちょいエロ。
■もう1月末とかの発売なんですが
「Piaキャロットへようこそ！G.P.」の
原画描かせていただきました〜
次回のPSFでなんか描かせて貰う予定！

INFORMATION

Przm Star 2008.Midorimaru Kamishiro // QuanXing Information

■　カミシロ緑マル(女性向)//光星(男性向)は2008年同人サークル『Przm Star』と姉弟サークル、『プリズムスクエア』にて、

・WJ系　聖闘士星矢(冥闘士メイン)　テニスの王子様　D.Gray-man　封神演義　アイシールド21(希望)

・ゲーム系　VP2　聖剣伝説3　武神の城　18禁ゲーム　旋光の輪舞(希望)　男性向メイン　戦国BASARA　(女性向)

・その他　ナースウィッチ小麦ちゃんまじかるて　美少女系オリジナル　など

…などなど、女性向から男性向まで幅広く、好きなジャンルで好きな方向性で好きな事だけ気の向くままに活動中です。HPのみとかもアリマス。

気に入ったらなんでもやりますが流行モノとは結構無縁。
同人は媚びぬ屈せぬ顧みぬ<ラオウ風>がモットー。

■　イベントは関東圏のオンリーイベントやComicCity、サンクリ、コミケなど、申込忘れしない限り参加中。
イベント限定本や無料配布グッズ等もたまにありますので是非よろしく～

■　また、D.Gray-man、テニスの王子様聖闘士星矢、美少女系等の商業誌アンソロジーなどにも、光星緑マルそれぞれでお邪魔させて頂いております。

描きおろしも多数ありますので夜露死苦ﾃﾞｨｽ。

■　PCの美少女ゲームなどの原画や、イラスト、オリジナル漫画などのお仕事もさせて頂いております。
覇王、Lぱれ、F&C等のブランドで、原画から裏方まで色々やってますので詳細はHPなどで随時。
1/25発売予定『Pia☆キャロットへようこそ！G.P』にて原画担当させて戴いてます。ゼヒゼヒ夜露死苦！

■　その他流動的情報やPrzm Star激動のニッキ、日々の欲望たれながしエロ絵<…>他、イラストやWebコミック等HPで公開してます～れっつACCESS。

■　同人誌やお仕事のご感想、萌え話、リクなど大歓迎です！メールにてどぞ！

※ 事前連絡の無い添付画像付メールは受信できない場合があります。
※ 携帯電話からのメールの場合PCからのメールを受信拒否にしてある場合お返事できません。
※ SPAMによくある件名は気づかない場合がありますのでお避け下さい。

■そんな訳で最初は意気揚々とFC漫画とかから始めたんですが後半他力本願というかグズグズですいません・・・光星です。
　みんなWin<に未だ慣れない自分>が悪いんだよ・・・・！！！次頑張ります次頑張ります次・・・<毎回言ってる>

　多分1日あればなんとかなったのかもですが今回緑。のBASARA本も押してるんで・・・

■最近戦国BASARAの格ゲが出まして、姉弟でバリバリ対戦やっとります。久々にやれるレベルの格ゲなんで<だってアルカナハートとか絶対無理っぽい・・・気にはなるけど：>たのしゅーてもう！！<それが遅延の原因なんじゃというツッコミは無し。原作を優先して熱中できないヤツが同人なんかやってはイカン>

　設定資料集も出るし、今後もVP2やる予定ですが、合間にBASARAの美少女エロもいいね・・・なんて盛り上がってます。S女モノ<！>。
　あと延期になってるP.S.F.01でPiaネタなんかも・・・　もっと同人やる時間が欲しい。（仕事も今原画作業がんばってまーす。夏頃発売予定だじょ！）

■そんな感じで回り道を挟みつつ、また次回VP２本でお会いしましょう〜〜（もちろん他ジャンル本も読んで貰えると嬉しいですがv）
　ええ、このお詫びは必ず・・・必ず！！！

■あ、今回修正がやたらとオーバーだったかもしれませんが・・・まあご時世だと思って(T_T)とっとととオリンピックが東京以外に決まりますよーに。

2008.Apl.　Przm Star　　光星

Luminous Body

- Luminous Body -
Valkyrie Profile2-Silmeria- Book Product 08
Presented by Przm Star 2008 Apl.

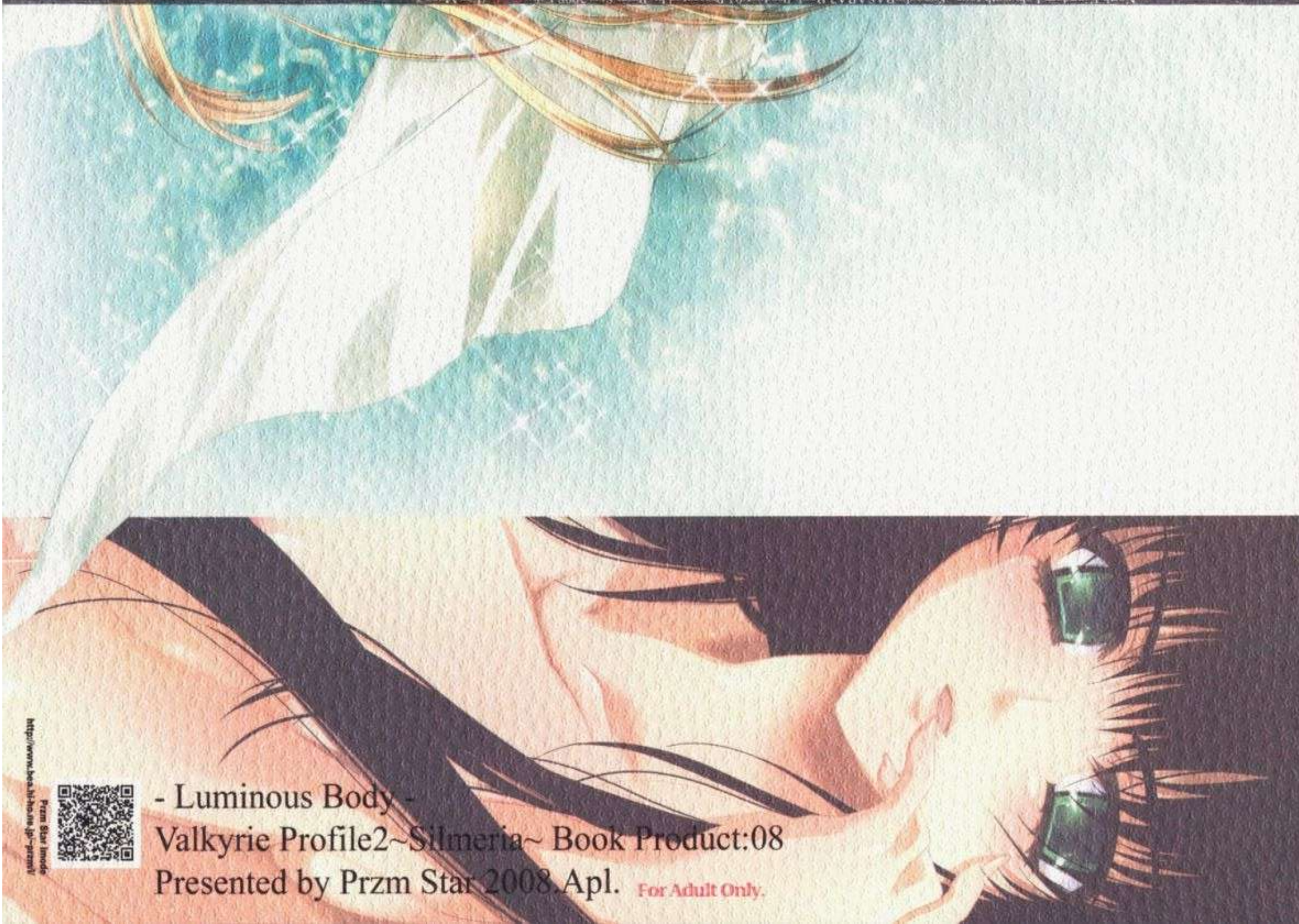
『Luminous Body』
初版：2008.04.27
発行：Przm Star/プリズムスター
印刷：ねこのしっぽ様

無断転載・無断複製 またはそれに準ずる行為は禁止させて頂きます。

SPECIAL THANKS!!
・高行様
・DA様
・石加女がど様（ゲスト）

Luminous Body

- Luminous Body -
Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book Product:08
Presented by Przm Star 2008.Apl.


- North Kingdom Labyrinth tour - SengokuBASARA2 Book Product:01 Presented by Przm Star 2008.Feb. (For Mens)
- Luminous Body -
Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book Product:08
Presented by Przm Star 2008.Apl.
For Adult Only.
Przm Star Inside
http://www.beta.hi-ho.ne.jp/~przm/